

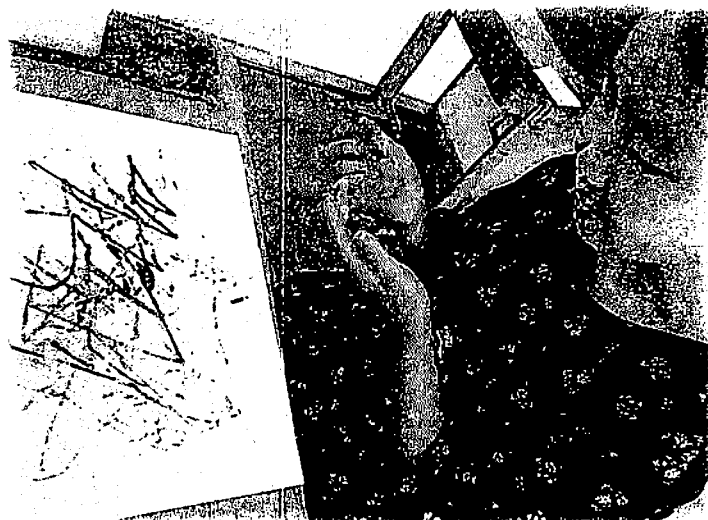
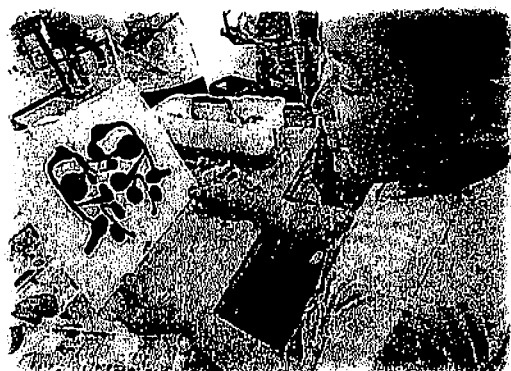
印旛郡図工・美術研究部テーマ

「きらめく感性 ときめく思い うみだせアート」

～子どもたちの 心をゆさぶり 思いを広げる 造形活動を目指して～

『自分らしい多様な表現を引き出す造形活動をめざして』

～絵の具で遊んで「自分いろがみ」～



平成30年8月28日（火）ヒルトン成田

印西市立西の原小学校 鈴木 純子

1 研究主題

『自分らしい多様な表現を引き出す造形活動をめざして』
～絵の具で遊んで「自分いろがみ」～

2 研究主題について

「どのような手立てをとったら、児童一人一人が『自分らしい作品』をつくることができるのだろうか。」という思いは、図画工作科のどの題材を行うときも、常に念頭にあった。

題材との出会いが印象的なものであったり、「やってみたい！」と思える材料を目の前にしたりすると、児童は間違いなく目を輝かせて活動にとりかかる。そのような表情を見ることができた時が何よりもうれしくて、手立てや仕掛けを工夫することに自分自身も楽しさを感じるようになった。

教材研究の一つとして日頃から行っていることは、「学習で活用できる材料・用具探し」である。例えば、スパッタリングでは歯ブラシと網お玉をセットにしたり、スタンプングでは割れ物を包む際に用いる発泡スチロールや台所用スポンジなどを切ったりして活用した。他にも、割りばしとロープを組み合わせて手作り筆をつくったり、段ボールをハケの代わりに活用したりして学習に取り入れてきた経験から、思いを広げるための用具はアイデア次第で数多く用意できることを実感した。特別な場の設定や高価な材料では、毎週行う授業でなかなか取り入れることができない。だからこそ身近にある素材に注目して活用の仕方を工夫することで、表現の多様性を引き出したいと考えた。

自分の思いに合わせて「自己決定」しながら表現活動ができれば、作品に「自分らしさ」が増えていき、完成した作品は紛れもなく世界でたった一つだけの「自分だけの作品」になるだろう。表現活動中の「材料・用具との関わり」を大切にするのはもちろんのこと、自分がどう表現したいのかをじっくりと考える「自分自身との関わり」や、互いに影響を受けながら活動する「友達との関わり」を学習の柱としながら、一人一人の作品への思いをより一層深めさせていきたい。そして、「自分らしさ」を表すための多様な表現を用いながら、生き生きと造形活動に取り組みさせていきたいと考え、本研究の主題を設定した。

3 研究仮説

【仮説1】

様々な用具を使った技法を体験することで、多様な表現が身に付き、思いを表すための表現が深まるだろう。

手立て① 様々な用具を使った技法を体験する時間を十分に確保することで、自分の思いを表現できるようにする。

手立て② ストローやスポンジなどの用具では、素材や長さの違うものを多数用意し、自分の思いに合わせて選んだりはさみなどで加工したりできるようにすることで、自分の思いに近付けられるようにする。

手立て③ 「活動の流れ」や「鑑賞の仕方」などの掲示物を作成し、活動の内容や目的を明確にすることで、児童が見通しをもって意欲的に表現活動を行えるようにする。また、教師が用意する掲示物をシンプルな模様にとどめ、児童自らが模様のつけ方を工夫したり、用具の使い方を発見したりできるようにする。

【仮説2】

児童同士の学び合いの場を意図的に設定することで、互いの表現のよさを交流し合い、自分らしい多様な表現を引き出すことができるだろう。

手立て① 活動中に「ミニ鑑賞会」（互いの作品を自由に見合う時間）を設定し、自分の作品づくりに生かしたり、興味がわいた表現方法を友達に教わったりできるようにする。

手立て② アイデア広場・用具コーナー・リサイクルコーナーなど、活動ごとに場の設定をすることで、互いに表現のよさを交流しながら自分らしい表現を見つけることができるようにする。

4 研究の実践

(1) 題材名 絵の具で遊んで「自分いろがみ」（4 学年）

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定したものである。

A 表現

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるようにする。

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

共通事項

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。

イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

本題材は、身近にあるさまざまな用具を用いて偶然できた模様や色の組み合わせなどを楽しみながら、自分の発想を実現するための表現方法を思いつく力を培うことをねらいとしている。

思いもよらない線や模様が画用紙いっぱいに広がることで、「自分いろがみ」は比較的容易に出来上がる。より自分らしい表現を引き出していくためには、さまざまな方法を試す時間を十分に確保することが必要であると考えられる。用具を手にして試し、表現の方法を知る。今度は違う方法を思いつき、また試す。この、「思いつき、試す」ことを繰り返すことで、一人一人の活用できる技法の幅を広げ、自分の思いを表すための表現を深めさせていきたい。

また、活動中に毎時間鑑賞の時間を取り入れる。表現方法や各自のアイデアを友達同士で交流することで、互いの作品のよさに気付きながら自分らしい表現方法を見つけ、思いを広げることができるようにさせていきたい。

本題材では、学習中のさまざまな活動の中で「自分で選んで、自分で決める」場面を設定する。用具や画用紙選び、作品の切り取り、額縁の作成など「自己決定」の場面を取り入れることで、「自分だけの作品をつくっている」ということに自信をもちながら活動させたい。そして、「思いつき、試す」「交流し、広げる」「選んで、決める」活動を、さまざまなものや人との関わりを通して丁寧に繰り返すことで、研究主題の「自分らしい多様な表現を引き出す」ことにつなげていきたいと考え、本題材を設定した。

(3) 児童の実態 (4学年 男子13名 女子14名 計27名)

質問内容	回答
1 図工の学習は好きですか。	好き・・・63% どちらかというが好き・・・30% どちらかというが好きではない・・・7% 好きではない・・・0%
2 絵をかくことについて (1) 何かを見て絵をかくことは好きですか。	好き・・・56% どちらかというが好き・・・30% 理由：見てかく方がわかりやすい。 手本がある方がかきやすい。 どちらかというが好きではない・・・11% 好きではない・・・3% 理由：真似をするのが苦手だから。 うまくかけないといやになる。
(2) 想像して絵をかくことは好きですか。	好き・・・63% どちらかというが好き・・・7% 理由：難しいけれど、自分の好きにかける。 自分だけのものがかける。 どちらかというが好きではない・・・15% 好きではない・・・15% 理由：想像できない。 何をかいたらよいかわからない。 自信がない。
3 絵の具で絵をかく用具について (1) 1～3年生のとき、筆以外で絵をかいたことはありましたか。	ある・・・74% ない・・・26%
(2) それはどんな用具でしたか。 ※「ある」と答えた人のみ	・キャップのふた ・スポンジ ・トイレットペーパーの芯

本学級の児童は、活気がありさまざまな活動に意欲的に取り組むことができる。係活動中や休み時間などでも、製作活動を好んで行う児童が多く、学級に常備してある画用紙やサインペンなどを利用して、日頃から友達と協力していろいろなものをつくっている。

実態調査の結果から、図画工作科の学習を「好き・どちらかというが好き」と答えた児童は、全体の約93%と高かった。一方で、「どちらかというが好きではない」と答えた児童が約7%いた。

絵をかくことについての質問に対しては、「何かを見て絵をかくこと」が約86%、「想像して絵をかくこと」が約70%の児童が「好き・どちらかというが好き」と答えていた。絵をかくことに対して比較的興味関心が高いと言える。一方で、絵をかくことはあまり好きではないと答えている児童もいる。そういった児童は、普段の様子やアンケートの記述から見ても「自分のかく絵に自信がもてない」「うまく表現できない=失敗」という意識が強くあるように思う。

筆以外の用具を用いて絵をかいたことがあるかの質問に対しては、「ある」と答えた児童が74%だったものの、さまざまな技法を用いたり、自分で自由に用具を選択して活動に取り組んだりした経験は少ないことがわかった。

今回の実践は、写実的な絵画をかく内容ではなく、偶然できた模様や色の組み合わせを楽しみながら作品をつくるものであるため、誰もが心を開放しやすい題材である。図画工作科の学習を「好き・どちらかというが好き」と答えている児童の意欲をさらに高められるようにするとともに、苦手意識をもっている児童も自分なりにアイデアが浮かぶような手立てをとっていききたい。本題材の中で身近にあるさまざまな用具に触れて、自分なりに活用していくことで、児童一人一人が生き生きと自信をもって自分らしい表現活動を行えるようにしていきたい。

(4) 指導観

本題材では、導入で身近にあるさまざまな用具（ビー玉・ストロー・歯ブラシ・スポンジなど）を用いた絵の具遊びを行う。一人一人がそれぞれの用具と触れ合う時間を十分に確保し、用具の使い方によって偶然できた模様や形、線などを思う存分楽しめるようにさせたい。また、教師が用意する掲示物はできるだけシンプルな模様にとどめる。さまざまな表現方法を試す中で、児童自らが模様のつけ方を工夫したり、用具の使い方を発見したりできるようにしていきたい。

「思いつき、試す」活動が充実するために、出来上がりのよさを気にしすぎずに気軽に何枚も試せるようにコピー用紙を数多く用意する。また、活動動線がスムーズになるように活動場所や用具を置く場所を配置することで、児童が夢中になって表現活動に没頭できる環境を整える。他にも、同じ用具でも質感や長さの異なるものを多数用意し、試しながら自分の表現にあう形を選んだり、加工したりできるようにして自分の思いを広げさせたい。

活動途中には、互いのつくり途中の作品を自由に見合う時間を「ミニ鑑賞会」として設定する。互いの表現のよさを交流し合う中で、友達の良いアイデアを自分の作品づくりに生かしたり、興味をわいた模様のつくり方を教え合ったりできるようにしたい。また、導入時に試した作品を「自分いろいろアイデア集」として各自でまとめ、「アイデア広場」に並べておくことで、いつでも見て学び合えるようにする。「用具コーナー」や「リサイクルコーナー」の設置についても、単に材料の置き場としてだけでなく、それぞれが互いの活動を自然に見たり、よさを交流したりする鑑賞活動の場として大切にしたい。自分らしい表現方法を見つけるために、一緒に活動する児童同士が互いにより影響を受けながら作品をつくることを肯定していきたい。

作品づくりの仕上げには、四つ切サイズで作成した「自分いろいろがみ」の模様の中から、特に気に入った模様を切り取る活動を行う。また、思いに合わせた額縁づくりも丁寧に行っていきたい。

このような活動を通して、同じ用具・同じ材料を用いても同じ作品は一つもないことを体感させ、一人一人の「自分らしさ」を感じながら多様な表現活動を行えるようにさせていきたい。

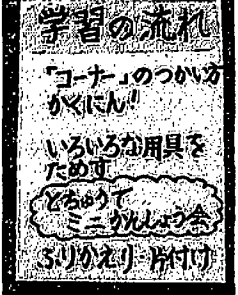
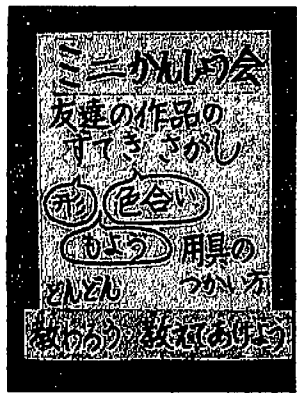

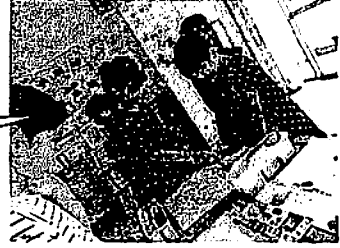
(5) 題材の目標

- ・いろいろな用具を使って、絵の具のさまざまな表現効果や用具の可能性に関心を持ち、表現を楽しもうとしている。 (造形への関心・意欲・態度)
- ・さまざまな表現効果のおもしろさや美しさを味わい、それをもとに発想を広げることができる。 (発想や構想の能力)
- ・筆以外の用具の扱いに慣れ親しみながら工夫することができる。 (創造的な技能)
- ・互いの表し方のよさやおもしろさを味わうことができる。 (鑑賞の能力)
- ・絵の具遊びを通して、形や色の組み合わせをとらえ、自分の表したいイメージをもつ。 [共通事項]

(6) 指導計画 (7時間扱い)

時配	主な学習活動	評価基準
2	○さまざまな表現方法を知り、用具を用いて試す。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな用具を使って、絵の具のさまざまな表現効果や用具の可能性に関心を持ち、表現を楽しもうとしている。 (関・意・態)【発言・行動】 ・筆以外の用具の扱いに慣れ親しみながら工夫することができる。 (創)【行動観察・表現】 ・互いの表し方のよさやおもしろさに気付き、認め合っている。 (鑑)【発言・表現】
2	○やってみたい表現方法を選び、「自分いろいろがみ」をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな表現効果のおもしろさや美しさを味わい、それをもとに発想を広げることができる。 (発)【表現】 ・筆以外の用具の扱いに慣れ親しみながら工夫することができる。 (創)【行動観察・表現】 ・互いの表し方のよさやおもしろさに気付き、認め合っている。 (鑑)【発言・表現】
2	○つくった「自分いろいろがみ」の気に入ったところを切り取る。 ○オリジナル額縁をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな表現効果のおもしろさや美しさを味わい、それをもとに発想を広げることができる。 (発)【表現】 ・互いの表し方のよさやおもしろさに気付き、認め合っている。 (鑑)【発言・表現】
1	○友達の作品を鑑賞し、よさやおもしろさ、表現の工夫を認め合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの表し方、作品のよさや工夫に気付き、認め合っている。 (鑑)【発表・鑑賞カード】

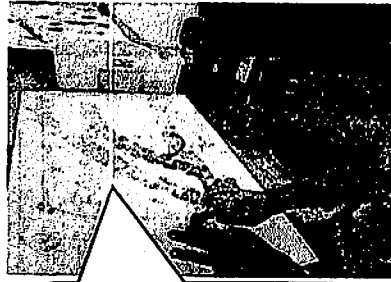
(7) 児童の学習活動

時配	主な学習活動	支援	資料
2	<p>さまざまな表現方法を知り、用具を用いて試す。</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【筆以外の用具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉 (大・小) ・ストロー (長い・短い・太い・細い等) ・スポンジ (2種類) ・ペットボトルのふた ・手作り筆 ・歯ブラシ・網お玉 <p>【筆を用いた表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にじませる技法 ・たらず技法 <p>【絵の具のみを用いた表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙片面に直接チューブから色を付ける。→閉じてから開く。 </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>どんなふうによったのか教えて!</p> </div>	<p>・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の流れ」の掲示物を作成し、活動の内容に見通しをもたせる。 (仮説1 手立て③) ・表現の見本となる掲示物はシンプルな模様にとどめ、児童自らが模様の付け方を工夫したり、用具の使い方を発見したりできるようにする。 (仮説1 手立て③)  <ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙を用意し、思いついた方法を気軽に試せるようにする。 ・児童がスムーズに動けるような活動動線を工夫し、乾燥棚とコピー用紙置き場を配置する。 (仮説2 手立て②) ・用具の使い方工夫がみられる児童の表現方法を随時紹介し、全体で共有する。 ・掲示物を用いて「ミニ鑑賞会」での活動内容を確認させることで、目的を明確にして活動できるようにする。 (仮説1 手立て③) ・活動途中に「ミニ鑑賞会」を設定し、自分の作品づくりに生かしたり、興味をわいた表現方法を友達に教わったりできるようにする。 (仮説2 手立て①) 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物 ・コピー用紙 ・乾燥棚 ・用具 コーナー ・掲示物

児童のアイデア① スポンジ

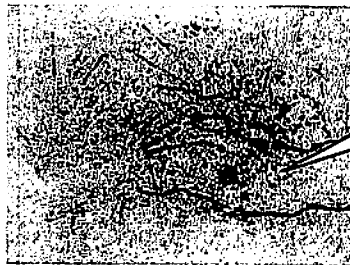


スポンジに3色の色をつけてから押したよ



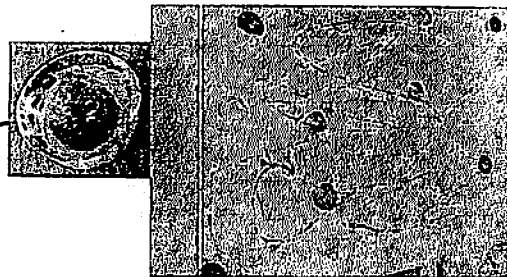
発泡スチロールをコロコロ転がしてみたら…

児童のアイデア② ストロー



2色の絵の具を画用紙につけてから一気に吹いたよ

児童のアイデア③ ビー玉



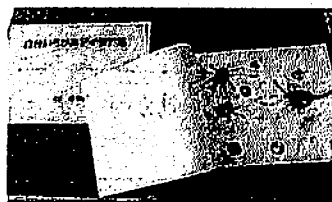
キャップにビー玉を入れて転がしてみたら…

児童のアイデア④ 歯ブラシ



手ではじいた方が、絵の具がよくとぶよ!

・試した紙を「自分いろがみアイデア集」として各自でまとめる。



・気に入った技法や自分なりのアイデアなどを付箋紙に記入してアイデア集に貼ることで、活動の振り返りをさせる。

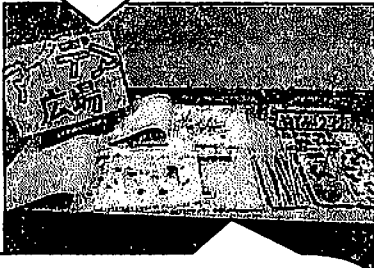


・自分いろがみアイデア集

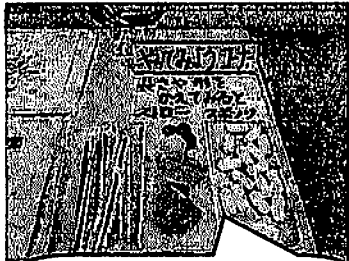
2

やってみたい表現方法を選び、「自分いろいろがみ」をつくる。

【アイデア広場】
活動中、いつでも見に来てよい場所



自分や友達の「自分いろいろがみアイデア集」を参考に、作品づくりをしたよ



どんな形のスポンジにしようかな

ストローの長さは・・・
太さは・・・

【用具コーナー】
※試したときと同様の用具を用意



・前時にまとめた「自分いろいろがみアイデア集」を「アイデア広場」に置き、作品づくりの参考にさせる。

(仮説2 手立て②)

・ストローやスポンジなどの用具では、質感や長さの違うものを多数用意し、自分なりに選んだり加工したりできるようにする。

(仮説1 手立て②)

※ストローは、吹くことに夢中になると酸欠になることがあるので気を付けさせる。

※足元にしまう道具・バケツの置き場所などの約束を徹底し、整頓された環境で活動できるようにする。

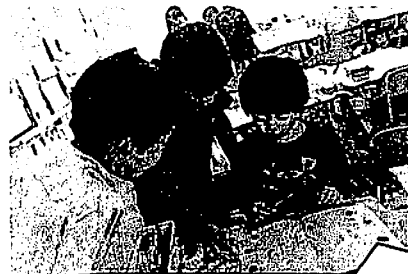
・それぞれの技法で用いる用具を並べた「用具コーナー」を設置し、互いの活動を見合いながら取り入れたい技法を自由に選択して模様をつくっていけるようにする。

(仮説2 手立て②)

・数種類の色画用紙を用意し、自由に選べるようにする。

・活動途中に「ミニ鑑賞会」を設定し、自分の作品づくりに生かしたり、興味がわいた表現方法を友達に教わったりできるようにする。

(仮説2 手立て①)



こんなふうに手を動かすとおもしろい模様になるよ！

・アイデア広場

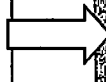
・やってみようコーナー

・用具コーナー

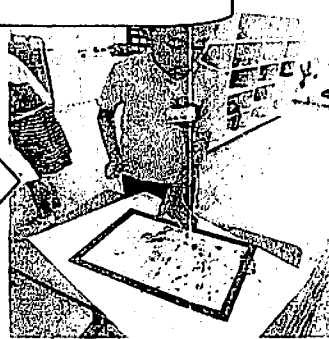
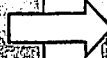
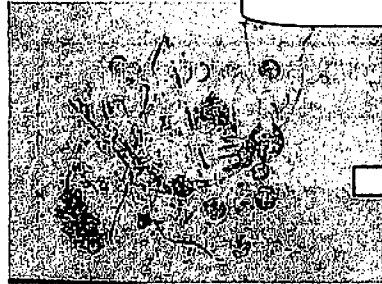
・4切画用紙
・8切画用紙
・掲示物

2

つくった「自分いろがみ」の気に入ったところを切り取る。



ここの模様がお気に入り！



オリジナル額縁をつくる。

【リサイクルコーナー】



・色段ボール紙でつくったフレームを用意し、作品の上に置かせることで、自分の作品の気に入ったところを明確にできるようにする。

・フレーム

・「リサイクルコーナー」を設け、互いの「自分いろがみ」や使い途中の色画用紙などを再利用できるようにする。

・リサイクルコーナー

(仮説2 手立て②)

・活動中に「ミニ鑑賞会」を設定し、自分の作品づくりに生かしたり、まねしたい表現方法を友達に教わったりできるようにする。

(仮説2 手立て①)

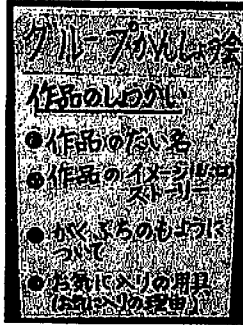
・額縁の色を選んだり、額縁の形を考えたりして、自分の思いや表現したいことを作品に表せるようにする。



1

友達の作品を鑑賞し、よさやおもしろさ、表現の工夫を認め合う。

・グループ鑑賞会



スポンジで色をついたら
オーロラみたいになったよ！



・全体鑑賞会
(4年1組美術館)



雪だるまがニュースを伝える

・振り返り

・グループごとの鑑賞会では、伝え合うポイント(気に入った用具やアイデア、作品のイメージなど)を示し、自分らしい表現について具体的な言葉で話し合えるようにする。

・鑑賞のポイント掲示

・振り返りカード

グループ鑑賞会の流れ
作品紹介タイム(1分間)
感想タイム(1分間)
質問タイム(1分間)
1人につき3分間×グループの人数
※本学級では3人グループで行った。
→全員が終了したらメンバーチェンジ

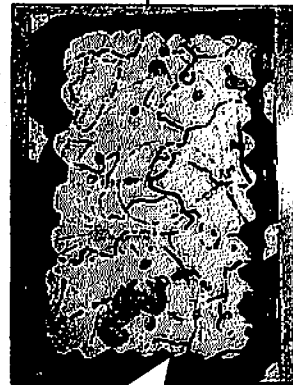
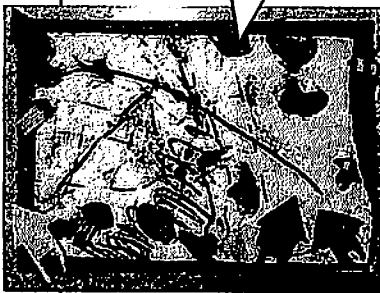
・話す内容と時間を決めて取り組むことで、鑑賞の内容を充実させる。

・鑑賞カード

・全体の鑑賞会では、友達の作品ですてきたと思った技法や模様を各自の鑑賞カードに書けるようにする。

・友達の作品のよさについて発表し合うことで、互いの工夫や表現の仕方について認め合えるようにする。

イカ台風



サンゴのダンス

・今回の学習を振り返り、いろいろな用具を使って模様をつくった感想や自分(または友達)が発見した技法について発表し合う。

5 成果と課題

(1) 仮説1について

〈成果〉

- ・ 試す時間を十分に確保し、さまざまな表現技法を体験したことで、多様な表現方法を知り作品に生かすことができた。
- ・ 長さや太さの違うストローや形を変えられるスポンジなどを用意したことで、自分なりに用具を加工したり選択したりして表現の幅を広げることができた。
- ・ 活動の見通しがもてるような掲示物を作成して提示したことで、どの児童も意欲を持続させて活動に取り組むことができた。

〈課題〉

- ・ 今回は、「自分いろがみ」を作品として仕上げたが、作成した「自分いろがみ」を活用して主人公をつくったり、さらには物語をつくったりする活動も考えられる。次回同題材を行う際は「考えを広げる」活動も取り入れていきたい。
- ・ 額縁を作る際、気に入った模様の箇所を皆同じ大きさのフレームをもとに切り抜いた。切り抜く形や大きさを自由に選ぶことができれば、児童の思いや工夫も、さらに表現されたと考える。

(2) 仮説2について

〈成果〉

- ・ 導入の際に試した紙を「自分いろがみアイデア集」としてまとめ、アイデア広場に並べたことで、実際に「自分いろがみ」をつくる活動中も模様づくりの参考にすることができた。
- ・ 鑑賞の時間を毎時間ごとに設定して見合ったことで、友達の表現のよさに気付いて用具の使い方を進んで教え合ったり、自分らしい表現を追求したりすることができた。

〈課題〉

- ・ 用具コーナーの中に自由に使える紙を用意してすぐに用具を試せるような環境を整え、互いに表現のよさを交流する場面を増やしたい。

資 料

児童 A の活動の様子

児童 A のアンケート結果

- ・ 図工の学習 → 好き
- ・ 何かを見て絵をかくこと・想像して絵をかくこと → どちらも好き

① 用具との出会い



気に入った用具：手作り筆

お気に入りの用具（手作り筆）

理由 手作り筆でやると風けたいにかける
 はっぴいしあわせてつかうと雨と風入る気になるから
 この筆をつくりました。

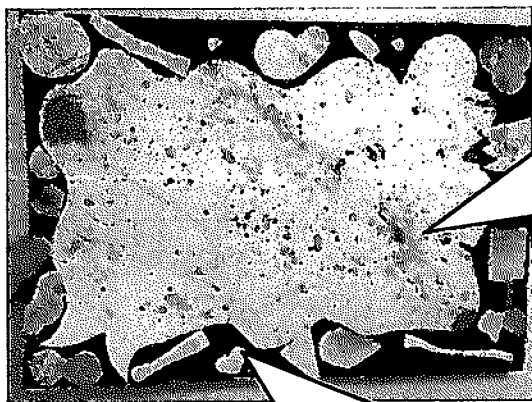
② お気に入りの模様（切り取った箇所）




いろいろな色や模様があるから
この場所を切ろうと思った。



③ 出来上がった作品



作品の題名 

雨あち時れ

作品のストーリーやイメージ

雨あち時れいろいろな色や模様でできるともさだかに
 になりました。見たことないあちこちにとんで
 くる風がダンスをして、雨がうたっているのだ
 です。

がくぶちをこのもようや色にした理由

雨あち時れいろいろな色や模様でできるともさだかに
 になりました。見たことないあちこちにとんで
 くる風がダンスをして、雨がうたっているのだ
 です。

児童 B の活動の様子

児童 B のアンケート結果

- ・ 図工の学習 → あまり好きではない
- ・ 何かを見て絵をかくこと・想像して絵をかくこと → どちらも好きではない

① 用具との出会い



気に入った用具：スポンジ

お気に入りの用具（スポンジ）

理由 色々な色で絵をかくことが楽しかったから
からです。スポンジで2色混ぜるとカラフルになる。
2色混ぜると色が綺麗に混ざりすぎて大変だけれど、
きれいな色になったのでよかったです。

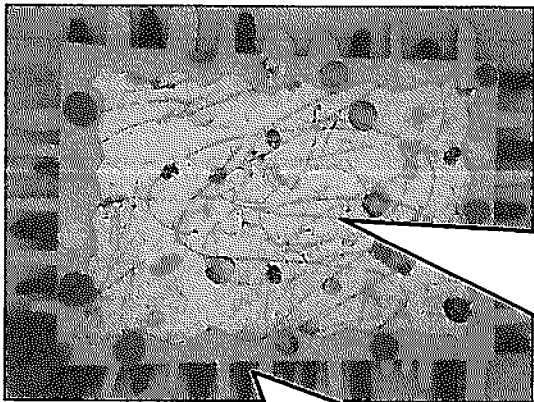
② お気に入りの模様（切り取った箇所）



ビー玉とスタンプを使った模様がきれいに
できているからこの場所を切ろうと思った。



③ 出来上がった作品



作品の題名

明るい花火パレード



作品のストーリーやイメージ

花火のように明るくパレードしたいとおもっている。
カラフルな色でビー玉とスタンプしておどろけるよ
うなイメージにした。

がくぶちをこのまようや色にした理由

この色は明るい色で、明るい
色にした。
カラフルな色で、おどろけるよ
うなイメージにした。

児童 C の活動の様子

児童 C のアンケート結果

- ・ 図工の学習 → どちらかというとき好き
- ・ 想像して絵をかくこと → 好きではない (想像ができない)

① 用具との出会い

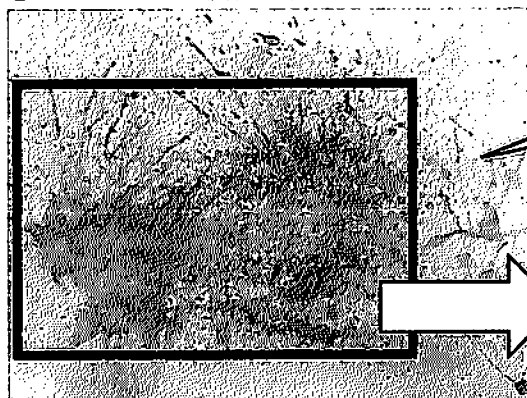


気に入った用具：ストロー、歯ブラシ

お気に入りの用具 (ぼろぼろストロー)

理由 つぶつぶするの感じが大好きになった。
 ストローはフーフーとやるほどよく
 のびる感じが大好きになった。

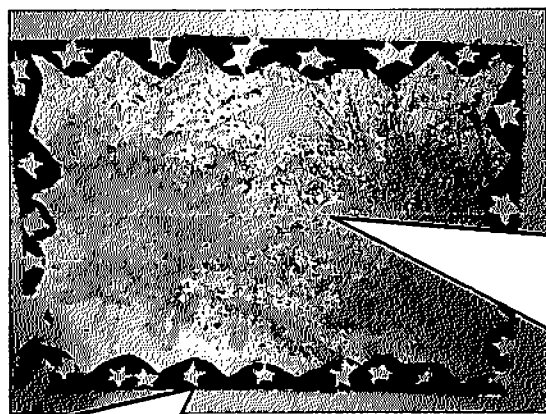
② お気に入りの模様 (切り取った箇所)



ストローでつくった模様を残したくて
 この場所を選ぼうと思った。



③ 出来上がった作品



作品の題名

しゅぼーかえるのうた



作品のストーリーやイメージ

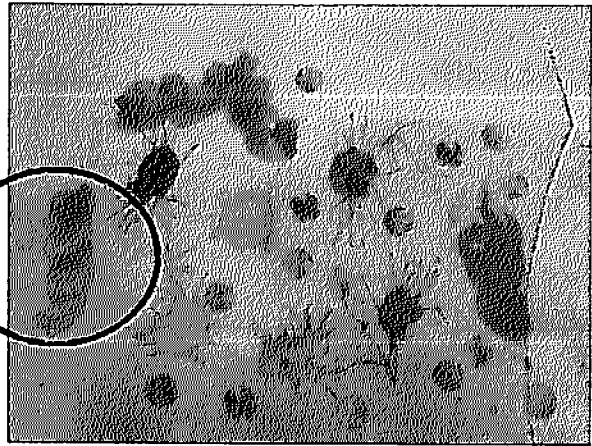
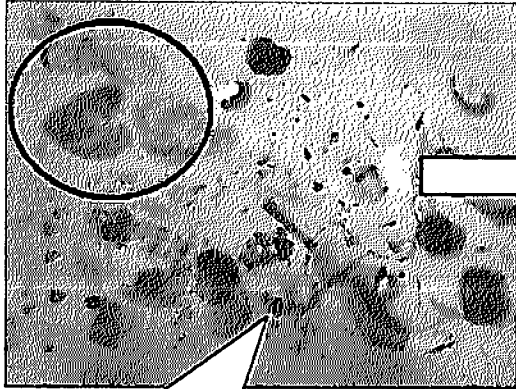
うたのイメージが、おもしろい。
 自由なイメージで、おもしろく
 なる。おもしろい。おもしろい。
 かな。

がくぶちをこのまようや色にした理由

よろい、おもしろい、おもしろい、おもしろい。
 おもしろい、おもしろい、おもしろい、おもしろい。
 かな。

表現のよさの交流から生まれた作品

①



3 友達に教わったこと・友達作品を見て自分もやってみたこと

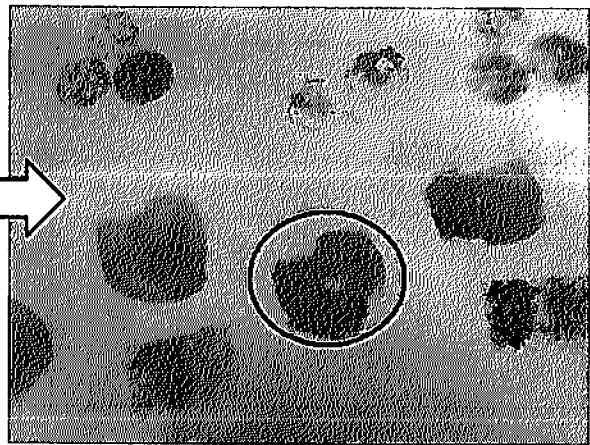
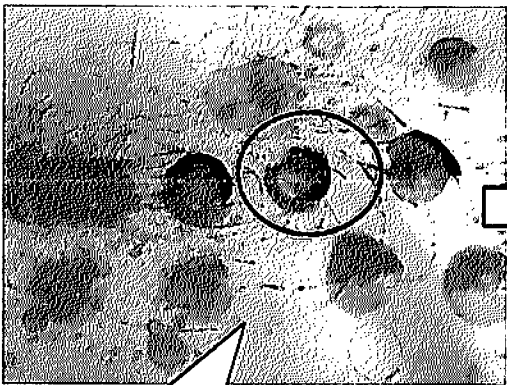
●○○さんに見せてもらった。

●○○さんの工を見ていいなって自分もやってみた。など…



さんのいい入タンフでやっていいものを
もみすりこい！私もやってみた！と思えたので直せ
次に届いて自分もやってみました。おどく
上手にできたのが 友達はいいなと思
いました。

②



3 友達に教わったこと・友達作品を見て自分もやってみたこと

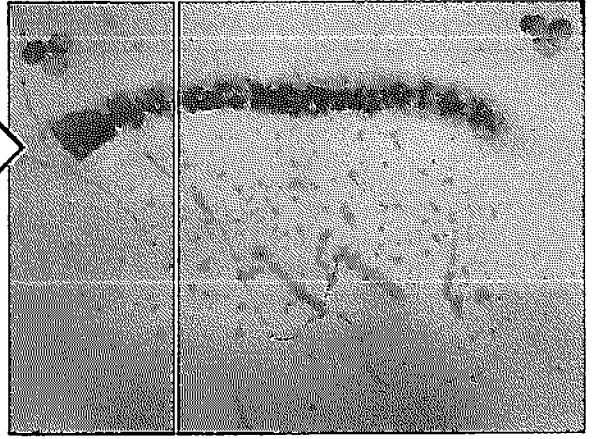
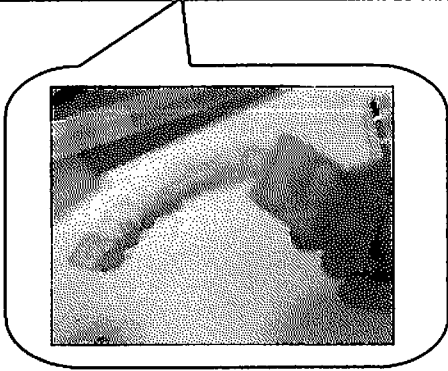
●○○さんに見せてもらった。

●○○さんの工を見ていいなって自分もやってみた。など…



さんの入タンフもいいなと思った
くりかたで自分もやりました。

③



3 友達に教わったこと・友達の作品を見て自分もやってみたこと

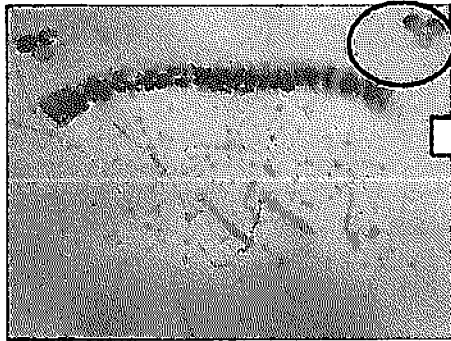
●○○○さんに○○○を習ってもらった。

●○○○さんの○○○を見ていいなって思っ自分もやってみた。など…



さんのこしがきれいだ、だから自分もやってみた。

④



3 友達に教わったこと・友達の作品を見て自分もやってみたこと

●○○○さんに○○○を習ってもらった。

●○○○さんの○○○を見ていいなって思っ自分もやってみた。など…



○○○さんに○○○を習ってもらった。○○○さんの○○○を見ていいなって思っ自分もやってみた。○○○さんの○○○を見ていいなって思っ自分もやってみた。○○○さんの○○○を見ていいなって思っ自分もやってみた。

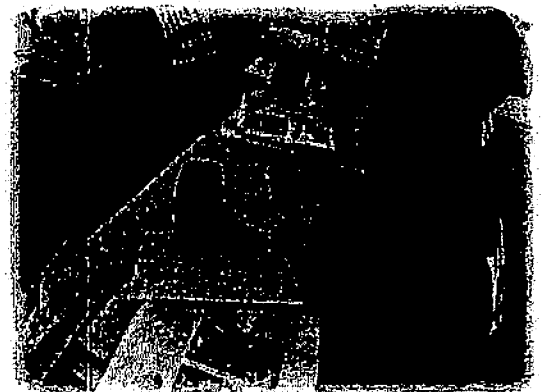
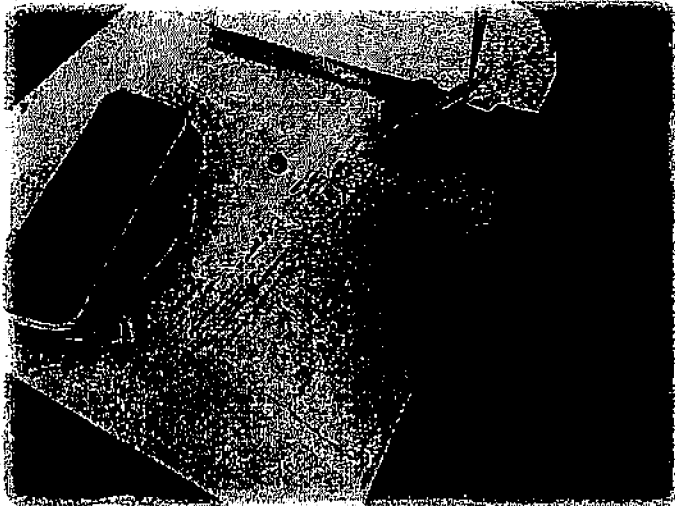
印旛郡図工・美術研究部テーマ

「きらめく感性 ときめく思い うみだせアート」

～子どもたちの 心をゆさぶり 思いを広げる 造形活動を目指して～

自分なりの主題を見つけ思いを表現する造形活動

～コラージュによる表現を通して～



平成30年8月28日 (火) ヒルトン成田

佐倉市立佐倉東中学校 熊谷 智子

研究主題

自分なりの主題を見つけ思いを表現する造形活動 ～コラージュによる表現を通して～

1 研究主題について

近年、多様化が進む社会の中で、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、自らの人生を切り開いていく生徒の育成が求められている。本校の美術科では、感性を豊かに働かせながら、ものごとのよりよいあり方を考え、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりしていくことができる生徒の育成を目指し、教育活動にあたってきた。

本研究は、私が本校に赴任した平成27年度から継続して行ってきた題材に焦点を当てたものである。27年度は、前年度の指導を受け継ぎ、自画像を点描画とコラージュで表現する題材に取り組んだ。生徒たちは木製パネルを使って作品制作をした経験がなく、目新しい材料を手にしたことで題材への期待感も高まり学習意欲につながった。しかし、一つの画面上に点描とコラージュを混在させたことによって、題材の焦点が見いだせないままに終わってしまったので、28年度は生徒の実態に合わせてコラージュに焦点を当てて題材開発をした。表現技法をコラージュに絞ったことによって、画面を大胆に構成したり、描画では出せない雰囲気味わったりすることができた。さらに29年度は、木製パネルの立体感を意識し、立体的な作品を制作する生徒もいた。

題材を続けていく中で、コラージュのよさを生かし、描く活動だけにこだわらず、非現実的な世界観を表現するということに焦点が絞られてきた。昨年度までの流れを受け、今年度は、コラージュで画面上を自由に構成することによって、自分なりの主題を表現する体験をさせたい。また、木製パネルの特徴を生かした立体的な表現の幅を広げていきたいと考える。

昨年度までの実践から得た課題として、「生徒に自分なりの主題をどう見つけさせるか」、「生徒がより興味関心をもって表現活動に取り組める場をどう設定するか」という点が挙げられる。生徒たちが自分なりに表現したい主題を見つけ、自信をもって表現することができる造形活動を目指し、今年度の研究主題を設定した。

2 研究仮説について

仮説(1) 自分の気持ちを表すキーワードから、いくつかの言葉を使って物語をつくることで、イメージを持ちやすくなり、自分なりの主題を見つけることができるだろう。

仮説(1)の手立て

- ①シュルレアリスムの作品を鑑賞することで、作品の非現実的な情景の中に作者の思いや主題が存在するということに気付かせる。
- ②マインドマップを書かせることで、自分の気持ちに気付かせ、いくつかのキーワードに絞って簡単な物語を考えさせる。
- ③教科書の実践例を参考にし、作品のイメージが構想されていくまでの過程を見せながら主題を考えさせるようにする。

仮説（２） 作品にコラージュ技法を用いることで、たくさんの可能性に気付かせ、主題をもとに多様な表現をすることができるだろう。

仮説（２）の手立て

- ①コラージュに使う写真などを集める時間を十分にとり、生徒たちが自由に組み合わせて考えたり、作品のイメージと比べながら自由に選べたりするようにする。
- ②パネルの表面だけでなく、側面も使ってよいこととし、立体的にはりつけたり、穴をあけたりなど、自分で選択できるような場を設定する。
- ③昨年度の生徒作品を提示し、今までにあったアイデアやその他の可能性を伝える。

3 研究の実践

(1) 題材名 「パネルの上の不思議な世界」 2学年

(2) 題材について

本題材では、生徒がマインドマップをもとに短い物語を考え、木製パネルにコラージュを用いて自分の考えた主題を表現していく。

本題材は、中学校指導要領の第2学年A表現（1）イ「主題などを基に想像力を働かせ、単純化、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。」及び共通事項（1）ア「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。」を受けて設定したものである。本校の研究主題は「“自ら” “共に” 学び、活動する力を高めるための指導の工夫」である。1学年では基礎を学習し、2学年では自分を見つめ表すための表現の幅を広げていくような自由度の高い題材に取り組みせ、3学年では限られた条件の中で自分を表現していくような題材に取り組みさせる予定である。

本題材では、生徒たちが自分なりの主題を見つけ作品と真剣に向き合い、自信をもって自分を表現していく力を身に付けさせたい。導入部分では、マグリットやダリなどの画家の作品を鑑賞し、作品の非現実的な情景の中に作者の思いや主題が存在するという事に気付かせたい。絵の中に登場するものや色合い、構図などの特徴について生徒に気付かせることで、生徒が自分の気持ちや思いから自分なりの主題を見つけしていく一助とする。また、マインドマップを書いて整理し、いくつかのキーワードから簡単な物語をつくることで、表現したい感じを具体的にイメージできるようにする。構想部分では、マインドマップや物語をもとに考えた全体のイメージを作品の主題とし、画面の構成や主題に合わせて写真や切り抜きを選択していく。生徒が自分の主題にあったものを自由に選ぶことができるよう、そのための場と時間を用意しておく。制作部分では、集めた素材を使って木製パネルに画面を構成していく。木製パネル全体を使った表現方法にも気付かせるようにし、材料の使い方を自分で選択できるようにする。作品の完成後に鑑賞会を行い、他の作品に対して自分なりの感想を持ち、意見を発表することができるようにしたい。また、作品に寄せられた感想を共有する場

にもしていきたいと考える。

本題材を通して、自分なりの主題を生み出し、それを表現するということを生徒に体験させたい。体験を通し、生徒が自分の考えに自信をもって表現する楽しさを味わうことで、様々な可能性に気づき、自分なりの方法で主題を表現しようとする力をつけさせたい。また、今後の授業や生活の中でも自分なりの考えを持ち、ものごとをよりよくしていこうとする態度を育てたいと考える。

(3) 生徒の実態

2学年は、女子はおとなしく何事にも集中して取り組む生徒が多い。男子は活発で体を動かすのが好きな生徒が多いが、全体的に、手先の器用な生徒が多く、ものづくりに集中して取り組むことができる。授業の様子から男女ともに、自分の作品をよりよくする方法についてもっと知りたいと考えている生徒が多いように感じる。一方で、作品を立体的に捉えたり完成像をイメージしたりすることが苦手と感じている生徒もいる様子である。本題材では、自分で主題を生み出して作品を制作するため、表現や鑑賞について生徒の実態を調査するアンケートを実施した。

【質問1】ものをつくることや絵を描くことは好きですか？

- ①好き 44% ②どちらかといえば好き 38%
③どちらかといえば嫌い 12% ④嫌い 6%

【質問2】美術の作品を制作するときアイデアを考えることをどう感じますか？

- ①楽しい・面白い 37% ②どちらかといえば楽しい・面白い 33%
③どちらかといえば難しい・苦手 16% ④難しい・苦手 14%

【質問3】ものを見て描くときと、想像して描くときではどちらが楽しい・面白い・得意と感じますか？

- ①ものを見て描く 51% ②想像して描く 35% ③どちらでもない 14%

【質問4】作品を見ることは好きですか？

- ①好き 26% ②どちらかといえば好き 52%
③どちらかといえば嫌い 12% ④嫌い 10%

【質問5】写真のように現実的な絵と、現実にはあり得ない世界を描いた絵ではどちらが好きですか？

- ①写真のように現実的な絵 48% ②現実にはあり得ない世界を描いた絵 43%
③どちらでもない 9%

(在籍生徒106人、男子62人、女子44人、欠席8人)

作品を作ったり描いたりすることに対して約8割の生徒は好意的に捉えているが、約2割は嫌いだと感じている。作品を構想することについては、7割の生徒が好意的

である一方、難しい・苦手と感じている生徒は3割であった。このことから、つくることは好きでも、アイデアを考えると難しさを感じる生徒もいると考えられる。

質問3では、想像して描くより、ものを見て描く方が楽しいと答えた生徒が約半数であった。しかし、質問5で現実的な絵と現実にはあり得ない世界を描いた絵を選択した生徒はほぼ同じくらいであった。このことから、生徒たちの中には、非現実的な想像の世界を描いた作品に興味をもっていても、自分自身が表現するとなると難しさを感じている生徒もいると考えられる。質問4では、作品を鑑賞することについて約8割の生徒が好意的に感じているが、好きと答えた生徒は全体の約3割と、比較的少ない。題材の中で鑑賞活動を行い、生徒に自分なりの視点をもたせることで、作品がより主題に迫ったものになるようにしたい。

(4) 指導観

2学年は、手先の器用な生徒が多く、ものづくりに集中して取り組むことができる。自分の作品をよりよくしたいと考えている生徒が多数である一方、作品を立体的に捉えたり完成像を具体的にイメージしたりすることが苦手な生徒もいる。そこで、授業では、視覚的な情報を積極的に提示するようにし、なるべく全員が具体的で共通なイメージを持てるように指導していく。実際に画面上に材料を並べながら作品の完成イメージを考えさせるなど、できる限り実物を見せながら具体的に指示するようにする。

本題材では、自分で主題を生み出して作品を制作するため、主題を考えたり構想したりする段階を大切に、生徒が考えを深められるよう十分な時間を確保するようにする。また、所々にいくつかの選択肢を用意することで、生徒自身が考えて選び取りながら進める場面をつくるように心がける。自分なりの主題を生み出し、それを表現するという体験を通し、自分の考えに自信をもって安心して自分を表現する楽しさを味わわせたい。それによって、生徒自身が今後の授業や生活の中でも自分なりの考えを持ち、ものごとをよりよくしていこうとする姿勢を育てたいと考える。また、生徒が作品を鑑賞する際にも、作者側の視点で自分なりの気づきを見つけられるよう指導していきたい。

(5) 題材の目標

- ・ コラージュによって生み出される不思議な世界観に興味を持ち、自分なりの主題を、楽しんで表現しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- ・ 自分の作品のイメージをつかみ、それに合う材料や表現方法を考えることができる。
(発想・構想の能力)
- ・ 作品のイメージに合った材料や方法を選択し、工夫して表現することができる。
(創造的な技能)
- ・ 作品に込められた主題や表現の工夫に気づき、自分から作品のよさを味わうことができる。
(鑑賞の能力)

(6) 指導計画 (10時間扱い)

過程	時配	主な学習内容	評価規準 (観点) [方法]
導入	1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に載っているマグリットやダリの作品を鑑賞し、描かれているものや作品のテーマについて考える。 材料や技法の特性と用具の扱い方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 非現実的で不思議な雰囲気のある作品を見て、そのよさや面白さを味わい、主題の存在に気付くことができたか。 (鑑)[学習カード・授業の様子] 技法や材料の特徴、用具の扱い方を理解しようとすることができたか。 (関)[学習カード・授業の様子]
構想 ・ 準備	2	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の例を参考にしながら、ワークシートにマインドマップを書く。 マインドマップで出た言葉の中から、作品に生かせるような言葉をいくつか選び、キーワードを組み合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや、そこから考えたことを表現しようとし、物語づくりを楽しもうとすることができたか。 (関)[ワークシート・授業の様子] 材料の特徴や用具の扱い方を理解し、実践することができたか。 (創)[作品・授業の様子]
		<ul style="list-style-type: none"> 組み合わせたキーワードをもとに、作品に登場するものを考え、短い物語をつくる。 アクリル絵の具とジェッソで木製パネルに下塗りする。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを使って作品のイメージを表現するために必要な写真や切り抜きを集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品のイメージや、完成像を意識して素材を選ぶことができたか。 (発)[授業の様子・ワークシート]
		<ul style="list-style-type: none"> 構図や貼り方に合った大きさを考え、よりイメージに合ったものを選ぶ。 イメージに合うように大きさを編集する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品のイメージや構図に合う写真や素材を探そうとすることができたか。 (発)[授業の様子・学習カード]

制作	4	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や切り抜きなど、はりつける素材を適当な大きさに切りぬく。 ※時間があればパネルの上に置いて構図を試してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・[共通事項]色や形、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 ・コラージュによって生み出された非現実的な雰囲気を感じ取り、自分の作品のイメージをつかむことができたか。 (発)[ワークシート・授業の様子] ・自分の主題に沿った表現をするため、工夫して制作することができたか。(創)[作品・授業の様子]
		<ul style="list-style-type: none"> ・パネルの上に写真などを配置し、構図を決める。 ・はりつける場所やはりつけ方に注意しながら画面に材料をつけていく。 ○パネルに穴をあける、側面を使うことが可能。 ○絵の具などの画材を使うこともよしとする。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランスや細かい部分を見ながら、作品を仕上げる。 	
終末	1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞会を行う。 ・友達の仕事のよさや面白さを見つけ、鑑賞カードを使って感想を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を鑑賞し、よさや面白さを感じることはできたか。 (鑑)[ワークシート・授業の様子]

(7) 材料・用具について

【教師】木工用ボンド・ホットボンド・のり・はさみ・ニッパー・ジップロック
木製パネルB4・針金・新聞紙・画用紙・写真切り抜き(不要になったカレンダー・雑誌・新聞紙・広告・パンフレットなどから)

【生徒】はさみ・のり(液体)・絵の具セット(アクリル)・各自必要な材料・道具

4 成果と課題

<仮説1>

成果

- ・初めに、ダリやマグリットの作品を鑑賞したことによって、不思議な世界観への理解が深まり、題材に入り込みやすくなった。また、活動への期待感を高めることができた。
- ・マインドマップを書かせたことで、生徒たちのなかに自分なりの主題を見つけようとする姿が見られた。普段はなかなかテーマが決まらず、作品への取りかかりが遅い生徒も、自分の思いに気付くことができた。

- ・教科書の実践例を参考にしながら主題を考えさせたことによって、活動の趣旨が伝わりやすかった。また、生徒が見通しをもって題材に取り組めた。
- ・主題を真剣に考えられたことで、しっかりとしたイメージを持って作品に取り組むことができた。そのことにより、生徒たちがより題材に入り込んでいき、楽しみながら活動することができた。

課題

- ・作品の主題を考える際にマインドマップなどを用いたことで、前半は言葉を使って表現することが多くなった。言葉にすることはできるが、文章を作ることが苦手な生徒にとっては、物語を作ることが難しいと感じた。語群から選んで組み合わせられるようにするなど、苦手な生徒でも取り組みやすくなるような工夫が必要である。

<仮説2>

成果

- ・シュルレアリスムだけに影響されずに、コラージュを出発点として、表現の広がりがみられた。
- ・描くことに自信がなかった生徒も、今までにはなかった表現が見られ、自分の主題に自信を持って作品をつくることができたと思われる。
- ・生徒たちは自由に素材の組み合わせを考えたり、作品のイメージを想像したりし、作品についての考えを深めることができた。
- ・実態調査で見られた「作品に興味はあるが、自分で表現するとなると難しさを感じる」というギャップが縮まり、生徒たちに「自分から表現したい」という気持ちが出てきた。
- ・写真では表現しきれないものを、自分で描いたり加工したりして表現しようとする生徒がいた。新しい発想が出てきて、題材をさらに深く広く掘り下げられた。

課題

- ・材料や道具の準備に時間がかかり、生徒が自由に選んだり試したりできるような豊かな環境を毎時間用意するのが大変であったため、今後は工夫が必要である。
- ・インターネットから取り込んだ写真等の取り扱い方について指導していく必要がある。
(商標、著作権などがかわる写真・画像の取り扱い)

27年度から継続して題材を行ってきたことで、コラージュのよさを生かし、描く活動だけにこだわらず、非現実的な世界観を表現するということに焦点が絞られてきた。

今年度は特に、作品の主題設定に重点を置いて指導を行うことができた。その結果、主題を真剣に考えられたことで、主題のイメージをよりの確に表現するため、描く、立体にする、破く、穴をあけるなど、様々な表現をする生徒が出てきた。次年度は今年度までの課題をもとに研究を継続し、生徒が自由に材料を選んだり表現を試したりできるような豊かな環境づくりにも目を向けていきたい。

<資料編>

1. 生徒作品



制作途中の様子

[生徒 A]

題名「理想」

○授業の様子

いつも授業に前向きに取り組んでいるが、描くことにはあまり自信がない。始めは、自分のイメージに合った写真だけを使って表現しようとしていたが、構想途中で限界を感じたようであった。その後、必要なところは写真を参考にしながら描いて表現していた。制作の中で、「青空や海やシャボン玉など、明るく、透き通った感じのものが好き。小さいころこんな世界があったらいいなと思っていたことを思い出して作品にした。」と話していた。

心の世界を描こう
～カラー・ジョーによる表現～

◆自分の内面を見つめてみよう
言葉や絵などを使って、自分の内面を表現してみよう。
「自分らしさ」を表現する材料を探してみよう。
主観的な感情や印象を表現して、自分らしい世界を表現しよう。

<教科書 26 ページを見ながら心の中を画にしてみよう>

◆発想のヒント
① いろいろな言葉を挙げてみよう

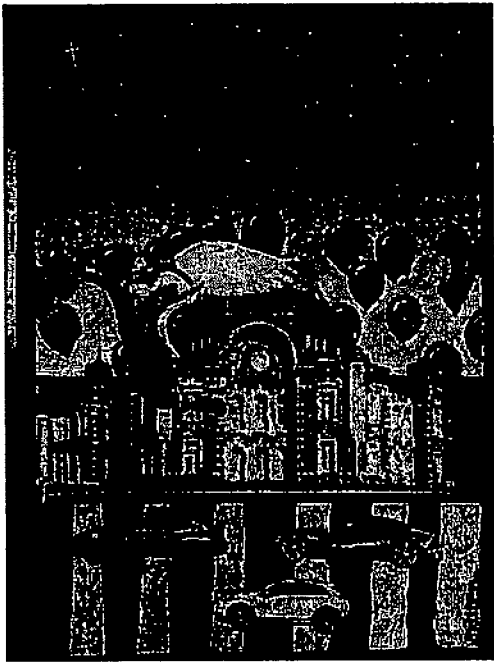
人は誰か?	人は何者?	登場する物は?	場所は?
...

② 言葉を組み合わせて描いてみよう

③ 表現の材料を大皿に、言葉を組み合わせて表現を考へよう。

空 海 花
しゃぼん ひらひら
本 グラス

しゃぼんを吹いたら海にいた。空から紙吹雪が降ってきて海にはガラスのコップが浮かび、開いた本が海底から上がってくる。空には大きな花が咲いている。



[生徒 B]
題名「 You can fly 」

○授業の様子

体を動かすことが好きでさぼさぼとした性格。イメージに合った写真を探していく中で東京駅の写真を見つけ、駅舎の雰囲気に着かれ、作品に使った。始めは風船ではなく花の写真を使う予定であった。その後、人が飛んでいるイメージに合わせて風船に変更した。風船もすべて写真を貼り付けようとしていたが、イメージに合うものが見つからず、途中から自分で描き始めた。空は下塗りの色をいかしつつ、夕方から夜にかけての雰囲気を出したいと制作の中で話していた。

心の世界を描こう
～コラージュによる表現～

2年 [redacted]

◆自分の内面を見つめてみよう
言葉や絵などを通して自分の内面を探ってみよう。
「自分らしさ」を表現する主題を決めて表現してみよう。
主題に合った色や材料も決めて、自分らしい表現をしよう。

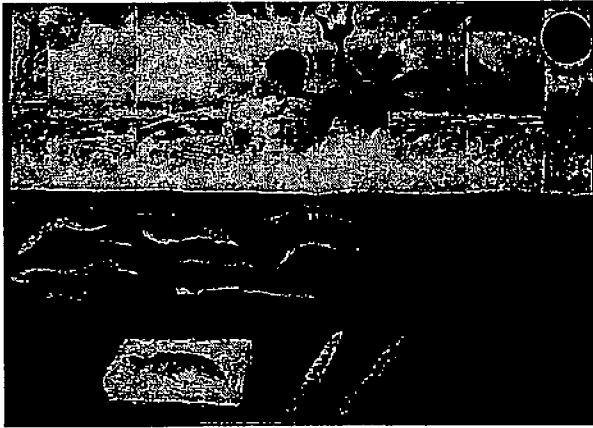
<教科書 26ページを見ながら心の中を画にしてみよう>

◆発想のヒント
いろいろな言葉を集めてみよう

どんな場所?	どんな場所?	どんな場所?	どんな場所?
花	花	花	花

ボール 嫌いなもの
表札 車 花 くま

夕日のなかバレーボールをして遊ぶ。車が渋滞していて表札（標識？）がいくつかある。



【生徒 C】
題名「 Yoshiki 」

○授業の様子

落ち着いていてマイペースな性格である。美術の授業など、物作りは前向きに取り組んでいる。将来は料理人になりたいと話す。

本題材で、始めは画面を青色っぽく塗っていたが、光を強調するために全体を黒く塗りなおした。その後、自分で考えた物語に合わせて、海の上から神が出現する様子を表したという。金色の絵の具を使って暗い海の上に波の光を描き足している。

心の世界を描こう
→カラーシヨによる表現

2年 [redacted]

◆自分の内面を見つめてみよう
言葉や図などをヒントに、自分の内面を見つめてみよう。
「自分らしさ」を絵や言葉で表現してみよう。
主観的な表現や想像力を働かせて、自分だけの世界を表現しよう。

<教科書26ページを見ながら心の中を図画してみよう>

◆共通のヒント
①いろいろな言葉を思い出してみよう

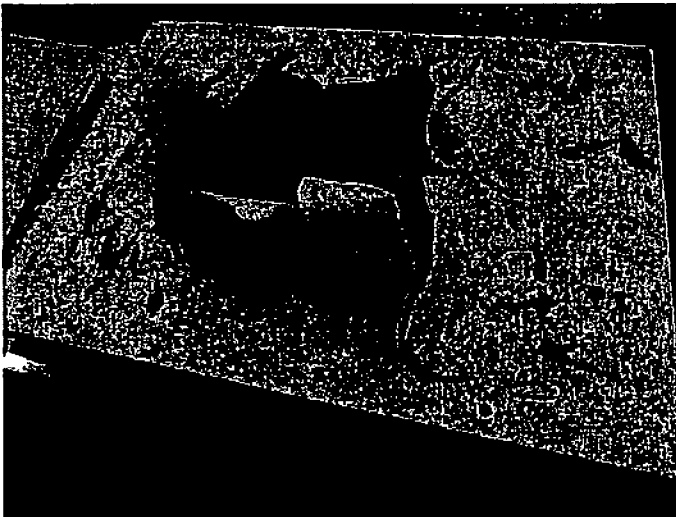
②自分の内面を絵や言葉で表現しよう

③思いやりの大切さ、想像力を働かせて表現をしよう

海 まぶしい
神 料理人
食べ物

海の風景を前に、料理人が食べ物を作っている時に神が現れる。

その他の生徒作品



[生徒D]

○授業の様子

自分の考えにあまり自信がなく、なんとなく制作に取り掛かることが多い。一方で、友達のアイディアにはかなり興味を示す。始めは「破れた紙の向こう側にも世界が広がっていて・・・」と話していた。画用紙の向こう側にはスパッタリングを使って小さな星を表現し、宇宙のような空間をつくった。白い画用紙には内側の景色と合わせて何色か色をつけ、破れた勢いを表現した。



[生徒E]

○授業の様子

作品制作では大胆なアイデアを思いつくことが多い。いろいろな方法を試してみたいという意欲が見られる。中央の黒い怪物は、「あえて真っ黒に塗らず、ボールペンの線を重ねて描くことで、“いろいろなものが混ざり合って作り出された”という雰囲気を出したかった」と話していた。画面に穴をあけ、空が割れて別の世界とつながっている感じを出した。



[生徒D]

○授業の様子

ボールなどが飛び出す様子を表現している。側面も画面の一部として使い、空間の広がりを出そうとした。

